

2007年度

環境教育 指導計画 事例集

本指導計画は、「環境教育特論」(神戸親和女子大学 教育専攻科)の講義の成果として、小学校・幼稚園における環境教育プログラムを作成したものです。

環境教育・指導計画の作成

1. 指導者	学部・学科(教育専攻科)学籍番号(XXXXXX)氏名(I ・ M)
--------	-------------------------------------

2. 指導の対象とする校種、学年、教科等

校種	小学校	学年	2年生	教科等	生活科+総合
----	-----	----	-----	-----	--------

道徳、特別活動、総合的な学習の時間を含む。

3. 主題(テーマ)	『夏野菜を育てよう』
4. 主題の設定理由	<p>一年生の時に一度同じ活動を教師側が主体で学習している。今回は育てる野菜を変えて、児童が主体的に活動できるようにしたい。野菜がどのようにして作られているのかを思い出し、実際に栽培することで野菜に親しみをもつだけでなく、変化や成長の様子に気づいてほしい。</p> <p>児童側も一度経験したことなので、積極的に取り組むことができるかと予想される。また、自分たちの手で育てることにより、そこから生まれる愛情やありがたみの気持ちを大切に、友達とともに楽しみ工夫をしながら、収穫までの様々な感動を味わってほしい。</p>
5. 目標(ねらい)	<p>野菜の変化や成長に興味・関心を持ち、最後まで責任を持って大事に育てることができる。</p> <p>野菜の変化や成長、気づいたことを観察・記録をし、絵や文章で表現することができる。</p>

6. 指導内容の展開 時間数(1学期)放課含む

指導内容に体験的要素を入れること

指導内容	学習活動	指導上の留意点
<p>野菜作りの計画と内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活の時間と休み時間を使い、野菜を育て夏休み前には収穫する。 ・ 学校の畑(花壇)で栽培をするため各自の苗を植える場所を指示する。 敷地内の畑へ行 	<ul style="list-style-type: none"> きゅうりとミニトマト、1年生で栽培していない方を選ぶ。 ・ 観察用プリントに野菜の名前と目標を書き込む。 ・ 計画をメモする。 ・ 名札に名前と育てる野菜の名前を書く。 四人ずつ交代で土を混ぜる。 	<p>前年度の野菜の栽培について話し、経験を思い出すことによって興味・関心を引き出す。</p> <p>自分の手で育て、最後はその野菜を食べるということを伝える。</p> <p>成長した苗に名札をつけるため人数分用意する。(準備)</p> <p>スコップ(大)4つ、(小)</p>

<p>き、土作りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 土作りの作業を四人ずつ交代でやる。 <p>苗を植えつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 三人一組で順番に作業をする。 <p>手入れ指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 水のあげかた。 きゅうりは土が乾燥しないように注意する。 ミニトマトは梅雨の時期に注意。 <p>支柱立ての作業</p> <p>手入れの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 茎を支柱に結ぶ。 摘心の意味。 <p>中間発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> 野菜の変化は？ 世話の工夫。 今の気持ち。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の児童は活動内容のメモをとる。 全体を混ぜよう。 <p>三人一組になり交代で苗を植える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 協力して順番にスコップで苗を植える。 手が空いていれば活動内容のメモをとる。 植えつけたら水をやる。 <p>それぞれの手入れの仕方を学ぶ。</p> <p>メモを取る。</p> <p>土の表面が乾いたら水をやる。</p> <p>一人一本ずつ支柱を立てる。</p> <p>支柱に苗の茎を結ぶ。</p> <p>手入れの仕方を学ぶ。</p> <p>メモを取る。</p> <p>水やり、手入れ。</p> <p>観察・記録。</p> <p>自分の野菜の状態や変化をお友達に発表する。</p> <p>水やり、手入れ。</p> <p>観察・記録。</p>	<p>三人に一つ用意する。(準備)</p> <p>全員が土を混ぜる作業ができるように留意する。</p> <p>児童の活動を写真に取る。</p> <p>人数分苗を用意する。(準備)</p> <p>名前順の三人一組にする。</p> <p>全員の進み具合を確認する。</p> <p>作業の最後には順番で片づけをする。</p> <p>観察用プリントはいつでも個人に渡るように用意しておく。(準備)</p> <p>プリントに学んだことや気をつけることなどを書き込ませる。</p> <p>きゅうりは水が底から出るくらいにたっぷり。</p> <p>ミニトマトは日当たりを好む。</p> <p>八の字で結ぶ。</p> <p>きゅうりの摘心の場所をきちんと理解させる。</p> <p>ミニトマトはわき芽をとらないように注意する。</p> <p>野菜の変化や成長に気づく。</p> <p>教師が撮った写真を公開。</p> <p>児童に任せつつ、各自に声を掛けていく。</p>
--	--	---

<p>追肥と受粉の作業。</p>	<p>追肥をする。 受粉をする。</p> <p>水やり、手入れ。 観察・記録。</p>	<p>本体を傷つけないように注意する。</p> <p>児童の野菜が枯れそうな場合、手は加えず、声を掛ける。 (教師も観察を怠らない。枯れてだめにすることのないように注意する。)</p>
<p>収穫し、食べてみよう。</p>	<p>育てた野菜を収穫し、食べてみる。 味わった感想を記録する。</p>	<p>どんな風に味わうか。 自然の味を感じてほしい。</p>
<p>自己評価をする。</p>	<p>プリントに自己評価を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 良く出来た。 ・ まあまあ。 ・ もっと頑張れば良かった。 	<p>自己評価用のプリントを用意する。(準備)</p>

7. 評価の観点

- ・ きゅうりとミニトマトの栽培で細かい違いを理解できた。(知)
- ・ 育てていく中で愛情を持つことができた。(情)
- ・ 最後まで責任を持って育てることができた。(意)
- ・ 収穫、味わう際に自己評価をする。(信)
- ・ 最後まで詳しく観察・記録ができたか。
- ・ 中間発表の際、野菜の変化や成長に気付くことができる。
- ・ 積極的に発表することができる。
- ・ 児童の観察記録を集め、資料をファイリングする。
- ・ 栽培後、野菜に対する感謝の気持ちがあるか。

環境教育・指導計画の作成

1. 指導者	学部・学科(教育専攻科) 学籍番号(XXXXXX) 氏名(Y ・ R)
--------	---

2. 指導の対象とする校種、学年、教科等

校種	小学校	学年	3年	教科等	総合的な学習の時間
----	-----	----	----	-----	-----------

道徳、特別活動、総合的な学習の時間を含む。

3. 主題(テーマ)	川遊びの体験を通してみんなで佐保川の事を考え、川を美しくする活動をしよう。
4. 主題の設定理由	身近に川があっても、水辺で遊ばない児童がいる。水辺の活動を楽しむ体験をとおして、児童の自然に親しむ豊かな感性を育てる。「水」にかかわる環境教育は身近な問題を多く含み、最も取り組みやすいテーマといえる。
5. 目標(ねらい)	自ら学ぶ意欲のある子どもを育てるために、地域の豊かな自然について体験学習を中心に学ばせ、環境保全に対する自分の考えを持たせるとともに、地域の環境をよくするために何ができるかを考え、行動できる児童の育成をめざす。

6. 指導内容の展開 時間数(全 27 時間)

指導内容に体験的要素を入れること

指導内容	学習活動	指導上の留意点
<p>1. 川で遊ぼう</p> <p>佐保川についてのクイズを出す。佐保川での児童の体験を聞く。</p> <p>行ってもよい範囲を決め、常に全体を見る。五分毎に班員が全員いるか確認させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の一番そばを流れている佐保川についてのクイズをする。 ・ 佐保川での思い出を発表する。 ・ 佐保川に行き、班に分かれて川遊びをする。合図があれば、班長は班のメンバーを数え、教師に伝える。 ・ 教室に戻り、川遊びの感想や絵を各自プリントに書く。 ・ 班で感想を発表し合い、どんな川にしていきたいかを話し合う。 	<p>佐保川に興味をもち、児童が日常生活での佐保川と自分のかかわりについて振り返り、考えられるようにする。</p> <p>天候や川までの道の安全面を確認しておく。複数の教師で協力して引率する。</p> <p>佐保川で見つけた生物や友達とした活動、水についてなど、できるだけたくさん書けるように時間をとる。</p>
<p>2. 水生生物を見つけよう</p> <p>佐保川に行き、水生生物を見つける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川に行き、水生生物を捕まえる。 	<p>教室に水槽を用意し、学級の</p>

<p>生物を OHP でスクリーンに映し出し、生物の名前やどんな水の場所に住んでいるかを発問する。</p> <p>水生生物による水質調査をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図鑑などで見つけた生物を比較し、名前やどんなところに住むかを調べる。 ・班ごとに順番に真ん中に来て、生物の様子を絵や文でプリントに書く。 ・水生生物による水質調査をし、プリントの表に分類する。水生生物の役割を調べる。 	<p>真ん中に置き、水槽を囲むように机を並べる。</p> <p>図鑑を用意する。</p> <p>きれいな水に住む生物、大変汚い水に住む生物など自分で調べることで気づくようにする。</p>
<p>3 . 川の水を調べよう</p> <p>佐保川の水の透視度を調べる。</p> <p>佐保川の上流の水を見せる。</p> <p>どうして上流の水と違うのかを発問する。</p> <p>昔の佐保川をよく知る地域の方をゲスト・ティーチャーとして招き、話を聞く。</p> <p>4 . 水生生物をふやして川をゆたかにする方法を考えよう</p> <p>川を豊かにするためにできることを考える。</p> <p>家庭での水と自分の生活のかかわりに気づく。</p> <p>5 . 学んだことをみんなに伝えていこう</p> <p>広報活動をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・佐保川の水はきれいか調べる。水生生物から予想する。 ・班ごとにペットボトルの透視度計を使い、他の水と比較し、プリントにまとめる。 ・上流との違いを考え、話し合う。 ・どうして上流の水と違うのかを考える。 ・ゲスト・ティーチャーを招き、話を聞いたり質問したりする。生物や周りの環境などを聞く。 ・プリントにまとめる。 ・水生生物を増やし、川を豊かにする方法を考え話し合い、発表する。プリントにまとめる。 ・家での水と自分の関係を振り返り、発表する。水を大切に作る工夫について家の人にインタビューし、発表する。どんな生活が大切か考える。 ・学んだことをポスターやピラなどに書き、地域に配布、掲示し、 	<p>雑巾の水、雨水、プールの水など用意する。</p> <p>佐保川の上流の水を用意する。</p> <p>上流との生活の違いを考えるようにする。</p> <p>昔との違いに気づくようにする。</p> <p>自分の生活と水とのかかわりに気づくようにする。</p> <p>自分たちのできる事を見つけ、行動に移せるようにする。</p>

<p>佐保川に行き、清掃活動をする。地域の方たちと一緒に取り組む。</p>	<p>伝えていく。 ・佐保川の清掃活動をする。 ・プリントをまとめ、一冊の冊子にする。</p>	<p>自分たちのできることを地域に広げていく大切さに気づくようにする。 学習の様子を伝えるとともに佐保川清掃のお願いもする。 児童の活動や授業の様子をまとめた冊子を作り、地域に配布する。</p>
---------------------------------------	---	--

7. 評価の観点

1. 川で遊ぼう

川の自然に親しみ、積極的に川遊びに参加しているか。(関心・意欲・態度)

川遊びの感想や絵をプリントに書けているか。(思考・表現)

2. 水生生物を見つけよう

水生生物から水質調査ができることに気づく。(気づき)

水生生物の役割に関心を持ち、自分から進んで調べようとしているか。(関心・意欲・態度)

3. 川の水を調べよう

川の水やその川の上流の水と他のいろいろな水とを比較し、違いを追究する。(気づき)

いろいろな水の透視度に関心を持ち、調べようとしているか。(感心・意欲・態度)

プリントの水質値水生生物分類表に工夫してまとめられているか。(知識・思考・表現)

4. 水生生物をふやして川をゆたかにする方法を考えよう

ゲスト・ティーチャーの話聞き、知りたいことを質問できているか。(感心・意欲・態度)

昔の川について学んだことをプリントにまとめているか。(知識・思考・表現)

日常生活と佐保川の関係に気づく。(気づき)

家庭での工夫について家の人にインタビューし、それをまとめて発表できているか。(表現)

川をゆたかにする方法を考え、積極的に取り組んでいるか。(思考・表現・感心・意欲・態度)

5. 学んだことをみんなに伝えていこう

佐保川をゆたかにするためには地域の方の協力が大切だということに気づく。(気づき)

学んだことを伝えようとしたり、伝え方を工夫したりしているか。(思考・表現)

今後の佐保川について自分なりに考え、行動できているか。(感心・意欲・態度)

環境教育・指導計画の作成

1. 指導者	学部・学科(教育専攻科) 学籍番号(XXXXXX) 氏名(S ・ H)
--------	--

2. 指導の対象とする校種、学年、教科等

校種	小学校	学年	2年	教科等	生活科
----	-----	----	----	-----	-----

道徳、特別活動、総合的な学習の時間を含む。

3. 主題(テーマ)	生き物と友だちになろう
4. 主題の設定理由	<p>生活科の飼育活動においては、動物が生きていることの実感や、動物に親しみをもち大切にすることが求められる。第2学年では、それに加え動物の生態や、不思議さに気づくこと、観察を通して成長や変化の様子に気づくことなどが期待される。</p> <p>本単元では、学校の周りにあるあぜ道、田んぼにいる生き物をつかまえたり、世話をしてその生き物について観察をする。生き物をつかまえることや、探すことに興味を示す児童は多い。しかし、実際にそれらを飼育することに関しては関心が低いように感じられる。また、学校で飼育しているウサギなどのあらかじめすみかやえさが定められた動物の飼育経験はあるが、それ以外、例えばザリガニやカエルといった生き物の飼育経験は少ない児童も多い。すみかやえさについても児童自ら考えることで、生き物の住む生態に目を向けることができる。つかまえた生き物を、観察すること、大切に飼育することを通して、小さな生き物にある命への気づきや、生き物のことを「もっと知りたい」などの、興味・関心を高めることが望める単元である。</p>
5. 目標(ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生き物の観察を通して生きものの生息環境に気づき、興味を持つ。 ・ 生き物の飼育を通して、成長に気づき、生き物に親しみをもち、命の大切にすることができる。 ・ 生き物によって、適したすみかや、えさなどが異なることに気づくことができる。 ・ 生き物を育てることを通して、命の大切さ身近な植物に親しみをもち、その中で遊ぶことができる。

6. 指導内容の展開 時間数(10時間)

指導内容に体験的要素を入れること

指導内容	学習活動	指導上の留意点
<p>第一次</p> <p>生きものさがしたんけんに行こう(3時間)</p> <p>計画を立てよう</p> <p>・ 生き物を探しに行こう</p>	<p>生きものを探しに行く計画を立てる</p> <p>どこにいけばいるか、道具は何か必要かを話し合う。</p> <p>生きものを探し、つかまえる</p> <p>田んぼでザリガニつりをする。カエルやおたまじゃくしをとる。</p> <p>ザリガニを食べる。 (給食の時間を利用する)</p>	<p>・ あらかじめ、学校近辺でどこに行けばどのような生き物がいるかを下調べしておく。</p> <p>・ 児童に主体性を持たせるため、できる限り子どもたちに考えを取り入れて準備をする。</p> <p>・ 2時間続きの時間をとり、生きものや自然とたつぷりと触れ合えるようにする。</p> <p>・ 校外での安全には十分に配慮する。</p> <p>・ 生きものだけでなく、生きもの住む場所、周りの自然環境にも目を向けるように指導する。</p> <p>・ 児童の諸感覚を働かせた気づきに共感し、より多くの児童に広げていくようにする。</p> <p>・ 実際に飼育するものだけを学校に持ち帰るようにする。</p> <p>・ 観察・世話をしたい生き物ごとに班を作る。</p> <p>・ 農薬など、安全性には十分に配慮する。</p>
<p>第二次</p> <p>生きものともだちになろう(3時間)</p> <p>・ 生き物について知ろう～住みやすい家・好きな食べ物は何かな～</p> <p>家をつくらう</p>	<p>つかまえた生きものの育て方について、図書館やパソコンで調べる。</p> <p>つかまえた生きものすみかを</p>	<p>・ スケッチブックに捕まえてきたときの様子を観察し記録にとどめる。</p> <p>・ それぞれの生きものにあつたすみかがあり、えさがあることに気づけるように助言をする。</p> <p>・ 調べ方について、指導する。</p> <p>・ 教室内にも、図鑑や飼い方の本をおいておく。</p>

<p>第三次 生きものブックをつくらう（４時間）</p> <p>・ 本を作ろう</p> <p>・ みんなに聞いてもらおう</p>	<p>作る。 教室の後ろにスペースを設け、「生き物の町」を作る。</p> <p>今までの成長過程を振り返り、調べたことを本の形にまとめる。</p> <p>本を使って生き物について、気づいたこと、発見したことなどを発表する。</p> <p>振り返りカードに記入する。</p> <p>生きものを返しに行くか、このまま飼うかを話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物をいつでも見れるようなスペースを設け、休み時間などに世話や観察が出来る空間にしておく。 ・観察記録用紙を「生き物の町」に置いておくことで、変化などを簡単に記録できるようにする。 ・班で役割を決め、観察記録は定期的にするように声かけをする。 ・スケッチや観察記録は成長過程が分かりやすいように整理をしておく。 ・ヒントとなるように教師側も定期的に写真などで記録を残しておく。 ・班ごとでまとめることで、友達の気づきを共有できるようにする。 ・友達の発表のよかったところ、新しく知ったことなどを書く。 ・聞いている児童からの、質問や感想によって、発表する喜びを味わえるようにする。 ・完成した本は共有スペースに置き、他のクラスや学年の児童も見てもらえるようにする。 ・生き物の命に配慮するように気をつける。
--	---	--

7. 評価の観点

《知》 生き物の特徴や生態について知っているか

《情》 思いやりを持って生き物を育てることが出来たか。

《意》 積極的に調べ学習を行えたか。

《信》 この学習をいかし、日常生活においても生き物を大切にしようとしているか。

・生きものを大切にしようという思いをもち、継続的に世話ができたか。

・生き物の成長や変化に目をむけ、その様子に気づくことができたか。

- ・生きものの生態に気づき、飼育の仕方を調べたり、自分なりに考えたり工夫することができたか。
- ・生きものへの思いや気づきを、絵や文を通して自分なりに表現できたか。
- ・班で意見を出し合い、協力して本作りに取り組めたか。

環境教育・指導計画の作成

1. 指導者	学部・学科(教育専攻科) 学籍番号(XXXXXX) 氏名(M・M)
--------	-------------------------------------

2. 指導の対象とする校種、学年、教科等

校種	小学校	学年	4 学年	教科等	社会
----	-----	----	------	-----	----

道徳、特別活動、総合的な学習の時間を含む。

3. 主題(テーマ)	『ごみはどこへ』 ～環境問題から地球にやさしく～
4. 主題の設定理由	<p>ゴミ問題は、児童にとって一番身近な環境問題である。ゴミ問題に関する学習を通して、環境保全や資源の有効利用などに目を向けさせることができる。また、環境教育にとって大切な行動化につながる学習である。さらに、ゴミ問題の解決のためには一人ひとりがごみに対する意識を変え、リサイクルなどを実践していかなければならないことに気づくことができる単元である。ひいては、自分が地域社会の中の一員であるという自覚を高めることにもつながる単元だと考える。地域・地球を大切にすることを育むとともに、ゴミ問題から生じる環境問題へ取り組みようとする態度と行動力を養うため、このテーマに設定した。</p>
5. 目標(ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・わたしたちの生活から出るゴミ処理の仕組みやごみのゆくえについて見学や調査などを通して調べ、人々の健康な生活を維持するためにゴミの収集や処理を市では、計画的・組織的に行なっていることをつかむ。 ・ゴミ処理における問題点についての問題意識をもつとともに、具体的な調査・見学を通して問題の解決に向けて自分なりの考えを持つ。また、地域社会の一員としての自覚を育むとともにできることをしようとする態度を養う。

6. 指導内容の展開 時間数(14 時間)

指導内容に体験的要素を入れること

指導内容	学習活動	指導上の留意点
1. ごみを調べよう	<p>学校ではどのようなごみがどこから、どのくらい出るのかを話し合う。</p> <p>学校内のごみを調べ、気づいたことを話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ゴミ調べ」のワークシートを作成する。 ・ごみの量や種類、分別の様子などに意識が向くようにする。

<p>2、ごみ収集の様子を調べよう</p>	<p>家庭では、どのような種類のゴミが、どれくらい出るのか、調べ、発表する。</p> <p>学校と家庭のごみの調査からごみの量の多さや分別の様子に関心をもつ。</p> <p>学校や家庭のごみを分別する。</p> <p>出したごみがどのように集められるかについて、調べ方を話し合う。</p> <p>ゴミがどのようにして収集されているのかを、ゴミステーションの看板やゴミを収集の人（市役所の人）に尋ねて調べる。</p> <p>ゴミの収集についてわかったことと疑問をまとめ、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の生活から各家庭のゴミ処理の様子を想起させ、気づいたことや疑問を用務員さんや、給食員さん、保護者の方にインタビューできるようにする。 ・ 分別の基準を明確にするために、ごみの種類や素材に着目するよう助言する。 ・ ゴミの集積所の看板の内容を事前に調べ、児童に見せることが出来るよう写真や表にして準備する。 ・ 近くのごみステーションの場所をあらかじめ確認しておく。 ・ 清掃事務所と連絡を取り、ごみ収集車の来る時間と児童の見学時間をあらかじめ合わせておく。 ・ 見学の際は、ごみの破片などに注意し、安全に留意する。 ・ 破砕処理、ペットボトル等のリサイクル、埋め立てについては詳しく取り上げ、環境問題に関わることを示唆する。
<p>3、もやすだけではないんだ（クリーンセンターへの見学）</p>	<p>ゴミステーションから運ばれたごみのゆくえについて話し合う。</p> <p>ごみのゆくえについてビデオを見て、クリーンセンターに行った時に詳しく知りたいこと、質問等をまとめる。</p> <p>クリーンセンター（ゴミ処理場）へ行って、それぞれのゴミがどのように処理されているかを調べる。</p> <p>ゴミの処理についてわかった</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ たくさんの量のごみをどのように処理しているのかを考えようとする意欲を喚起できるようにする。 ・ クリーンセンターでビデオを借りておく。 ・ たくさんのごみを処理しているという観点を明確にして見学がすすめられるように助言をする。 ・ クリーンセンターの方に質問ができるようにしておく。

	<p>ことをまとめ、発表する。または、新聞作りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの処理は組織的・計画的に進められていることに気づけるような意見を全体に広げる。 ・灰や燃やせないごみが埋め立てられていることにも触れ、ごみ処理に限界があることを気づくことができるようにする。 ・表現方法を工夫して、調べたことを効果的に表現できるように助言する。
<p>4、スーパーマーケットでは</p>	<p>店で取り組まれている、ゴミを減らすための工夫や努力についてスーパーマーケットに行き調べる。 調べたことを、ごみ問題の工夫のシートにまとめ、発表しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に、様々な取り組みや工夫がされているスーパーマーケットを調べる。 ・リサイクル資源の回収やスタンプカード、簡易包装など、後で環境問題への取り組みとしてできそうなことを、詳しく取り上げ児童が理解できるようにする。 ・「工夫シート」を作成しておく。
<p>5、工場では</p>	<p>工場のゴミを減らす工夫や努力について調べる。 調べたことを、ごみ問題の工夫シートにまとめ、発表しよう。</p>	
<p>6、わたしたちにはなにができるかな</p>	<p>市のごみの量と、その処理にかかる費用の資料、くらしの様子のおつり変わりとおみについての資料を見て、ごみの減量の必要性を知る。 ごみの減量化について、どのようなことに取り組みればよいかを話し合う。 話し合いをもとに、ごみを減らすために個人やクラス、家庭で取り組むことを計画する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ処理の移り変わりについての年表を用意する。 ・ゴミを処理するお金が増えたのはゴミの量が増えたから、くらしが便利になって、ゴミが増えたということをお子さんに気づかせる。 ・循環型社会形成法（3R、5R）やゴミを減らすことを気づかせ、個人やクラス、家庭で取り組むことを決め、実行できるようにする。

社会科でのゴミや水について調べた後は、総合的な学習の時間で環境問題につなげていく。ゴミ処理場から出る煙や水質汚濁を取り上げることから始め、酸性雨、公害、騒音、地盤沈下、中級温暖化などに児童が目を向けることができるようにする。そして、クラスでリサイクルに取り組んだり、学校や家庭に呼びかけをして、環境問題への取り組みが継続できるように指導していく。

活動によっては、県で行われているグリーンスクール表彰にエントリーをして、児童の興味・関心と意欲を持てるものにしていく。

7. 評価の観点

観点	趣旨
社会事象への 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの生活から出るゴミに関心を持ち、ゴミの分別や処理の仕方について意欲的に調べようとする。 ・ゴミを減らすために自分なりにできることを進んで考えようとする。
社会的な思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ・見学や調査を通して、健康な暮らしを維持するためにゴミの処理が果たす役割や意味、ゴミを資源として活用する意味などについて考える。 ・自分たちの暮らしとゴミのかかわりについて考え、ゴミの減量や再利用の大切さについて考える。 ・ゴミを減らすために、自分たちにできることはどのようなことがあるかを考える。
観察・資料活用の技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミステーションや環境事業センターなどの具体的な調査・観察を通して、ゴミのゆくえや仕事に携わる人々の工夫や努力などを工夫して表現する。 ・ゴミ処理に関わる資料などから、ゴミ処理の方法やルール、問題点などを読み取る。 ・ゴミの減量のために、自分なりに考えた方法を工夫して知らせる。
社会的事象についての 知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの分別の仕方や処理の仕方、ゴミを出すときのルールやその意味を理解する。 ・ゴミの処理は組織的・計画的に行なわれていることや仕事に携わる人々の工夫や努力などによって自分たちの健康な生活が維持されていることを理解する。 ・ゴミ処理に関する問題点（費用やゴミの増加、埋め立て地の限界）を自分たちの生活とのかかわりで理解する。 ・ゴミの減量のために、地域社会の一員として自分なりに取り組むべきことを理解する。

環境教育・指導計画

1. 指導者	学部・学科 (教育専攻科) 学籍番号 (XXXXXX) 氏名 (M ・ K)
--------	--

2. 指導の対象とする校種、学年、教科等

校種	小学校	学年	第三学年	教科等	総合的な学習の時間
----	-----	----	------	-----	-----------

道徳、特別活動、総合的な学習の時間を含む。

3. 主題 (テーマ)	自然と友達になろう ~ 自己表現を通して ~
4. 主題の設定理由	<p>近年、テレビゲームの普及や子ども達の塾通い、マンション、やビルの増加などによって子ども達が自然と触れ合える場所や機会が減少してきている。</p> <p>自然のものを使って工作をしたり、マップ作りなどの体験学習などを行うことで、普段では気づかない草木や花や自然のおもしろさを発見し、体験することを通して自然と触れ合うことの大切さを知ってほしい。また、家族や地域の方々にも協力して頂き学校と地域が一体となって進めていく学習活動にしたいと願っている。</p>
5. 目標 (ねらい)	<p>自然と触れ合うことの大切さ、テレビゲーム等のおもちゃがなくても自然のもの (葉、石、木、草、花 etc...) で楽しく遊べることを学び、自然と自分が共存していることを実感させたい。</p> <p>また四季を通して自然がどう変化していくか、自然に対する感性を育て、参加者同士や地域の方々との交流を深めたい。</p>

6. 指導内容の展開 時間数 (通年)

指導内容	学習活動	指導上の留意点
<p>< 春 > 地域探検 花マップ作り 新しい命が芽生える季節、花の咲き誇る季節を感じる。 「命の大切さ」「生きる力」を子ども達に指導していく。</p>	<p>チームを作り自分の住む地域にはどんな花が咲いているか散策し、「花マップ」を作る。</p> <p>ただ花を探すだけではなく、色や触った感触、匂い、などもマップに書き込んでいく。</p> <p>わからない花があれば図鑑やインターネットを使って調べる。</p> <p>花の少ない地域があれば植栽も視野に入れ、どんな花を植えるかなどをクラス考え、その後の花の成長を年間通して観察していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童だけで進めていくのではなく、地域の方々とのコミュニケーションを大切にしていける。 ・ 記録、話し合い、考えの共有、提案、発表などを大切にしていける。 ・ 校外に出るので事故に十分気をつけ、保護者の方々や地域の方々に協力をお願いする。

<p><夏> 葉っぱで笛を作くり、遊ぼう</p> <p>紙作りのメカニズムを知り、牛乳パックを再利用して暑中見舞いを作ろう</p> <p>こうぞの木から紙を作ろう</p> <p>生い茂る木々、活発に動く生き物たち、暑さ、躍動感をテーマにして指導する。</p>	<p>学校や地域に咲いている木の葉を使ってどんな工夫をすれば音が鳴るか楽器作りに挑戦してみる。</p> <p>牛乳パックの印刷部分を剥ぎ取り、水でふやかしミキサーにかけ粉砕する。型に入れ、花や葉っぱを飾りとして紙すきをし、乾かす。</p> <p>できたはがきを使い友達や親戚・家族などに暑中見舞いを書く。</p> <p>山にこうぞの木を探しに行き、こうぞの木を使って紙作りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ むやみに葉をちぎらないよう、植物の大切さ、植物も生き物だという事を事前に指導しておく。 ・ 予め保護者に牛乳パックを集めて頂くよう手紙で伝えておく。 ・ ミキサーの使い方、注意点について事前に指導しておく。 ・ どの山にこうぞの木があるかあらかじめ調査しておく。 ・ 教師自身がこうぞの木から紙を作る過程を理解し、紙作りができるようにしておく。
<p><秋> 夏休みに集めた石にペインティングをして動物を作ろう</p> <p>木の実(どんぐり、まつぼっくり)を使ってコマや人形作りをして遊ぼう</p>	<p>各自持ってきた石をどこで拾ったか発表したり、触ったり、どんな動物の形に似ているか友達と話し合いカードに書く。石にペインティングをして動物をつくりクラスで一つの動物園を作る。</p> <p>近くの公園などに行って秋見つけをする。春や夏とどういふところが変化したか自然を観察する。木の実を拾い作品を作る。できた作品で大会を開き誰のコマが一番長く回るか競争する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏休みの課題としておもしろい形の石を集めよう。という宿題がある事を保護者に伝え協力してもらおう。 ・ 事前にどんぐりやまつぼっくりがある場所を調査しておく。 ・ こまや人形を作る際、きりなど危険な道具を使うので怪我をしないように気をつけるよう促す。 ・ ある程度どんなものでどんな楽器が作れるか見本を作る。 ・ 自然の物で遊ぶことの楽しさを伝える。

<p>自然の物を使って楽器を作り演奏しよう 紅葉、実り、自然の美しさをテーマに指導する。</p> <p><冬> 落ち葉を使ってゲームをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 落ち葉ふく笑い ・ 落ち葉名刺交換 ・ 落ち葉トランプ <p>クリスマスツリーに飾るオーナメントを自然の物を使って作ろう</p> <p>「年末大掃除」 地域ゴミ拾い大会をしよう</p> <p>雪、寒さ、眠る生き物、落ち葉、寒さに耐えながらも生きているたくましさ指導していく。</p>	<p>石や葉っぱ、砂、木の実を探しマラカスや太鼓などを作る。 チームごとに曲に合わせて演奏し、手作り楽器音楽会を開催する。</p> <p>そんなに遠くなく、電車を使って出かけられる範囲の自然のある大きな公園まで落ち葉探しの旅にでかける。 そこで班ごとにたくさんの種類の落ち葉を拾い班対抗のゲームをする。</p> <p>落ち葉探しの旅で拾ってきた様々な葉っぱや木の実を使って、世界に一つしかない飾りを作る。 できた飾りをツリーに飾る。</p> <p>チームを作りゴミ拾いゲームをする。ポイント制にして楽しく競い合いながらゴミ拾いをする。分別品ごとや重さ、個数によって得点を変え、トータルのポイントで競い合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の先生方や PTA、また地域の方々に協力して頂き、事故のないようチェックポイントに立ってもらおう。 ・ ゲームの面白さだけが印象に残りすぎないように、なぜいろんな葉を集めたか？学習本来の目的をきちんと振り返る。 ・ 単なる工作にならないようしっかりと葉の色やかたちなどを観察させ、自然にふれる時間をつくる。 ・ 地域の方や PTA の方にもできるだけ参加してもらおう。 ・ 事前にゴミの学習をしておく。 ・ 見てすぐに分別ができるよう、事前に行った分別の学習で描いた絵を分別場所に貼っておく。
--	---	--

環境学習の目標	一般的な目標	具体的内容
関心	関心・意欲・態度	身近な地域の自然や環境に好奇心を持つ。 地域社会における様々な環境活動の取り組みに興味を持つ。 意欲的にゲームや物づくりに参加する。 積極的に発言できているか。
理解	知識・理解	自然の変化や仕組みを理解する。 カードに自然の変化など、気づいたことを書ける。 環境に関する問題を発見・理解できたか。 地域の人や保護者の人と話しインタビューができる。
問題解決能力	問題解決能力 思考・技能・表現	自分の考えや意見を持っている。 自分の意見を友達に伝えられる。
行動	関心・意欲・態度 技能・表現	協力して活動が行えている。 学んだことを分かち合える。 何か環境を学習したことで行動にうつせている。 学びの振り返りができる。

環境教育・指導計画の作成

1. 指導者	学部・学科(教育専攻科)学籍番号(XXXXXX)氏名(S ・ A)
--------	-------------------------------------

2. 指導の対象とする校種、学年、教科等

校種	幼稚園	学年	年長	教科等	一斉保育 自由時間
----	-----	----	----	-----	-----------

道徳、特別活動、総合的な学習の時間を含む。

3. 主題(テーマ)	環境を生かした保育 自然もぼくらのお友だち
4. 主題の設定理由	<p>本園では、比較的自然に恵まれた地域ではあるものの、幼児が自然と触れ合って遊ぶ機会は少なく、自然への関心も薄い。そこで、自然環境やエコに焦点をあて、体験活動を中心に環境教育を進め、環境をいかした保育で、自然のよさを実感し、自然と共に生きていける幼児を育成していきたいと考えた。</p> <p>また、環境活動を独特の活動とせず、いくつかの活動と結びつけていくことを考え、主題を設定した。</p>
5. 目標(ねらい)	<p>身近な自然環境に進んで触れ合い、そのすばらしさを感じたり、環境の変化に気付く。</p> <p>いくつかの学びと実践を繰り返しつつ、積み重ねるように展開していくことで「知識」「情操」「意思」「信念」を高め、活動を広げたり、新しい発見を通して感性豊かな幼児を育成する。</p> <p>植物や動物を自分たちの仲間として、世話をしたり、遊んだりすることで、生命の大切さやいたわりの気持ちを持つ。</p> <p>幼稚園だけではなく家庭でも生かせる環境活動を楽しみながら身に付ける。</p>

6. 指導内容の展開 時間数(1学期)

指導内容に体験的要素を入れること

指導内容	学習活動	指導上の留意点
(4月) 砂や泥の感触を楽しむ。 保育室で小動物を飼う。 虫の棲家マップを作る。	砂や泥の持つ特性を遊びを通して感じ、そうした特性を生かした遊びをする。 見たり、触れたり、えさをあげる。 小動物の絵を描く。 棲んでいる場所のマークを考える。	砂場や泥場は別にし、砂や泥の安全、清潔さに日頃から注意する。 室内の幼児の見やすい所に飼育かごなどを置く。 虫取り用具を用意し、子どもの幼児の要求に応じられるよう

<p>野草を食べる。</p>	<p>野原で探した野草を触り，においをかいだり，名前を調べたりする。</p>	<p>に環境を整えておく。</p>
<p>草や花びらで遊ぶ。</p>	<p>食べられる野草を摘んで，料理して味わう。</p>	<p>自然の恵みを使って自分たちで食べる楽しさを味わえるように支援する。</p>
<p>プランターで植物を育てる。</p>	<p>自然の様子を見ながら草花を摘んで遊ぶ。</p>	<p>地域の方にも協力してもらい，暮らしの知恵を語りながら行う環境を作る。</p>
<p>(5月)</p>	<p>色々な花の形，においなどに気付き，遊びの中に生かす。</p>	<p>摘んで良い花と摘んではいけない花の確認をしておく。</p>
<p>畑を楽しむ。</p>	<p>種から発芽して生長していく様子を知り，育てる喜びを感じる。</p>	<p>個人持ちのものを準備したり，グループごとに違う作物を植えたり，子どもたちが興味を持てるよう工夫する。</p>
<p>庭の花マップを作る。</p>	<p>生長絵日記を書く。</p>	<p>栽培物の生長の過程に目を向け，気付くよう助言する。</p>
<p>庭の花マップを作る。</p>	<p>花壇の花とは違う野菜の花を知る。</p>	<p>園庭探検や園内散歩など，園内を巡る機会を持つ。</p>
<p>庭の花マップを作る。</p>	<p>身近に咲いている植物に関心を持つ。</p>	<p>草花や木の花の香り，色などに気付くよう促す。</p>
<p>庭の花マップを作る。</p>	<p>園内に咲いている花の地図を作る。</p>	<p>出来上がった地図を保育室に貼る。</p>
<p>庭の花マップを作る。</p>	<p>ゴミがいくつかの仲間に分けられることを知る。</p>	<p>家庭でも生かせるように支援する。</p>
<p>庭の花マップを作る。</p>	<p>ゴミはリサイクル出来ることを知る。</p>	<p>ゴミの仲間分けを身に付け，リサイクルの意識を育てる。</p>
<p>鉢植えのプレゼントをする。</p>	<p>野草に興味や関心を持つ。</p>	<p>土壌の準備を前もってしておく。</p>
<p>鉢植えのプレゼントをする。</p>	<p>植物を育てる喜びを味わう。</p>	<p>親子のコミュニケーションの題材につながるよう工夫する。</p>
<p>鉢植えのプレゼントをする。</p>	<p>好きな人に花を贈る楽しみを味わう。</p>	<p>日頃の感謝の気持ちを込めてプレゼントが出来るよう助言する。</p>
<p>鉢植えのプレゼントをする。</p>	<p>メッセージを書く。</p>	<p>園内にさまざまな生き物が生息出来る環境を作っておくことで，季節の変化に応じた生き物</p>
<p>(6月)</p>	<p>身近な自然に関わり，さまざまな動植物の成長変化に，興味・関心を持つ。</p>	<p>園内にさまざまな生き物が生息出来る環境を作っておくことで，季節の変化に応じた生き物</p>
<p>ビオトープを作る。</p>	<p>身近な自然に関わり，さまざまな動植物の成長変化に，興味・関心を持つ。</p>	<p>園内にさまざまな生き物が生息出来る環境を作っておくことで，季節の変化に応じた生き物</p>

<p>目隠しして遊ぶ。</p> <p>(7月)</p> <p>虫探しをする。</p> <p>雲を探す。</p>	<p>自分の発見したことを保育者や友だちに伝え、自然への関心を高める。</p> <p>協力してくれた人たちに、感謝の気持ちを持つ。</p> <p>手で色々な木の肌ざわりを味わう。</p> <p>落ち葉の積もっている所、積もっていない所を歩き、その違いに気付く。</p> <p>目を閉じて色々な音を聞き、その音が何の音なのか当ててみる。</p> <p>工夫して虫を探し、捕まえたり遊んだりする喜びを味わう。</p> <p>色々な雲の形の変化を楽しみ、心地良さを感じたり、イメージを湧かせたりする。</p>	<p>の成長変化、例えば産卵から成虫までといった、命の循環に気付くように促す。</p> <p>自然環境の手入れは、ポイントを押さえて意図的に行う。</p> <p>事前に、ロープを張って、そのロープに沿って歩き、それぞれの違いに気付くように配慮する。</p> <p>子どもたちの気付きを残しておく。</p> <p>日頃使うことの少なくなった感覚を使えるようにする。</p> <p>子どもが家からカブトムシやクワガタなどを持ってきた機会をとらえ、話題にする。</p> <p>雲や気象の図鑑や本を準備しておく。</p> <p>楽しみな知として学べるよう配慮する。</p> <p>感動や気持ちを表現する力、想像力、知的好奇心などを大切に育てる。</p>
---	---	--

7. 評価の観点

- (情) 砂や泥の感触を楽しむ・・・砂や泥の特性を感じ、砂や泥と楽しく遊んでいるか。
- (情) 保育室で小動物を飼う・・・動物も自分たちと同じ生き物として、大切に世話が出来ているか。
- (意) 虫のすみかマップを作る・・・話し合いでは、自分の意見を発表出来ているか。
- (意) 野草を食べる・・・野草に興味を持ち、進んで野草を触れているか。
- (信) 草や花びらで遊ぶ・・・草や花びらでどんな遊びをしているか。
- (情) プランターで植物を育てる・・・生長を楽しみに、毎日観察や世話が出来ているか。
- (知) 畑を楽しむ・・・花壇とは違う土や花に気づくか。どんな気づきをするか。
- (知) 庭の花マップを作る・・・花や虫などについて進んで調べ、大事に触れているか。
- (知・信) ごみの仲間分けをする・・・ゴミの仲間分けを持続して出来ているか。
- (信) 鉢植えのプレゼントをする・・・感謝の気持ちを込めてプレゼント出来ているか。
- (情) ピオトープを作る・・・保護者や専門家の人たちと協力し、興味を持って出来ているか。
- (情) 目隠しして遊ぶ・・・安全の約束を守り、それぞれの自然の感覚を感じているか。

- (情) 虫探しをする・・・虫と仲良く遊び、虫の命についても考えることが出来ているか。
- (意) 雲を探す・・・気象についても興味を持ったり、イメージや表現が出来ているか。

その他

幼稚園の年長児は、字が書けるので、それぞれの学習活動ごとに、自分が感じたことを絵や文、詩などで表し残し評価する。そこで、子どもたちがどれだけ自然の良さを感じることができたかなど、子どもたちの想いを確認で出来る。そして、ここでは、子どもたち一人ひとりを評価するとともに、この方法でよかったのかなど、保育者として、自分自身を自己評価する必要がある。

また、幼稚園での子ども一人ひとりの言葉、その時その時の子どもたちの感動を大切にメモ、ビデオ、写真などで残す。写真については、保育室に貼ったり、「ほいくだより」に載せたりして、子どもたちが体験や経験を思い出せる環境づくりも大切にする。

何より、ねらいにも挙げたように、子どもたちが楽しみながら自然を活かし自然とともに活動(生活)出来ているかという子どもの様子が評価の観点となる。

このプログラムでは、ほとんどが通年で繰り返しながら活動できるようになっているため、子どもたちが幼稚園で繰り返しながら発展・展開のある活動が出来ているかを観察することも評価として考えられる。

そして、保護者との連絡帳、「ほいくだより」などでのやりとりを通して、家庭でも、自然・エコの活動が生かされているかどうかを知ること大切であるとする。

学期末ごとには、子どもが興味を持ったり、優れていたところを保護者に伝え、家庭でも、その興味やその子の良さを伸ばしていける環境をつくっていけるように協力を得る。そこから、家庭での環境教育・家庭エコにつなげていく。

環境教育・指導計画の作成

1. 指導者	学部・学科 (教育専攻科) 学籍番号 (XXXXXX) 氏名 (Y ・ N)
--------	--

2. 指導の対象とする校種、学年、教科等

校種	小学校	学年	第3学年	教科等	理科における総合学習
----	-----	----	------	-----	------------

3. 主題 (テーマ)	「土」と遊ぼう ～土の大研究～
4. 主題の設定理由	<p>土は太陽、水、空気とともに重要な環境構成要素の一つであり、生命と環境を育み、地球生態系の中で極めて重要な位置を占めている。</p> <p>子どもたちも本来、そんな土で泥だらけになって遊んだり、土の中の生物と遊んだりすることが大好きである。ところが、最近ではライフスタイルの変化から都会はもちろんのこと、田舎でも、道路や川べり、運動場までがコンクリートやアスファルト等の人工物で覆われ、子どもたちが土と身近に接する機会が少なくなりつつある。日常生活においては子どもたちは遊びから帰ってくると手を洗え、家の中に砂を持ち込むなど大人に言われ、土をネガティブなものとして受け止めやすくなっている。</p> <p>そこで、もっと土に親しみをもち、土と私たちの生活との関わりを知るということを目標に、様々な角度から「土」を観察し、調査していきたい。</p>
5. 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・土の手触り、色、匂い等を感じながら、様々な土の姿を楽しみ、土に親しみをもち、土に親しみをもち。 ・石や砂、粘土との比較を通して土の役目について知る。

6. 指導内容の展開 時間数 (43時間)

指導内容	学習活動	指導上の留意点
1. 「土」って何だろう (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・土とはどのようなものかを考える。 ・土でしたことを思い出す。 ・土を使ってしたいことを考える。 	自分なりの考えを発表できているか。
2. 「土」と遊ぼう (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・土と握手 (色々な土を触る) ・土だんごを作る (色々な土でだんごを 	・ (アレルギーなどでなく) 土を触

<p>3. 「土」を調べよう(5)</p>	<p>作る)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土の匂いをかく。 <p>ワークシートに気づいたこと・感想をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土を集める(色々な土を集める) ・土を掘ってみる(様々な場所の土を掘る) ・土を乾かしたり、湿らせたりしてみる(変化を調べる) ・土をこねてみる ・土を焼いてみる(自分の顔を作り素焼きをする。そして変化をさがす)等。 <p>ワークシートに気づいたこと・感想をまとめ、班で話し合い発表する。</p>	<p>るのを嫌がる子どもがいれば、少しずつでも慣れさせるようにする。</p> <p>積極的に土に触れているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのように調べるのか、まずは子どもたちの意見を聞く。たくさん挙がったところで、実際に調査にうつる。 <p>土の性質について、様々な方面から工夫して調べようとしているか。</p>
<p>4. 様々な土に植えてみよう(2)</p>	<p>「運動場の土」グループ 運動場の土に大豆を植える。</p> <p>「粘土」グループ 粘土に大豆を植える。</p> <p>「砂」グループ 砂に大豆を植える。</p> <p>「石」グループ 石を細かく砕いたものに大豆を植える。</p> <p>「草木」グループ 細かくした草や木くずを混ぜた土に大豆を植える。</p> <p>「虫」グループ ミミズ等の土中生物を入れた土に大豆を植える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのグループの発芽が早い、順序の予想を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「(一般的な)土」グループ 「粘土」グループ 「砂」グループ 「石」グループ 「木」グループ 「虫」グループの6つのグループに分け、それぞれのものに大豆を植えるよう指示する。他にも植えてみたい土の種類を子どもが発見すれば、グループに盛り込む。 ・グループごとに役割を与えるが、他のグループのものも観察するよう伝える。 ・世話や観察記録は、毎日休み時間などを活用して行う。 ・ものは「土」の中に入ると腐って「土」に戻るということを子どもたちに発見させる。 <p>積極的に世話や観察記録をとっているか。</p>

<p>5 . 芽が出たかな (2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・芽が出た土とそうでない土について、自分の予想したものと照らし合わせながら意見を出し合う。 気付いたこと・わかったことをワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・芽が出るのが早かった土は、なぜそのように早かったのか、また、芽の出ない土についてはどうすれば芽が出るか、ということを考えさせる。 予想との比較を自分なりに考察できているか。
<p>6 . いい土をつくらう(6)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「いい土」とはどのような土かを、考える。 ・コンポストで土づくりを行なう。土の変化を記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食の残りなどを活用する。(仕方なく残った分) ・この土は、後に卒業生への贈り物などに活用する。土の様子を気にかけて、記録をとっているか。
<p>7 . 土の役目って何 (3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの授業をふまえ、土と自分(人間)とのかかわりについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土は植物を生み出し、それを人間が食べ、人間はまた土に還る、という循環に気付かせる。土の重要性に気付いているか。
<p>8 . 土の(大型)絵本をつくらう(15)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスで1つの、土についての絵本をつくる。 ・担当になったページを各自で完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのようなタイトル・ストーリー・絵にするかの構想をクラスで練り、できあがった下書きをグループで分担して完成させる。工夫してストーリーを考えようとしているか。グループの中で協力し合っているか。
<p>9 . 発表会 (5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会にむけて、絵本以外のセリフや絵本を読む順番などを決め、練習を行なう。 ・全校児童の前で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に練習にのぞめたか。

7. 評価の観点

1. 「土」って何だろう

自分なりの考えを発表できているか。----- [知識・意欲・表現]

2. 「土」と遊ぼう

積極的に土に触れているか。----- [意欲・態度]

3. 「土」を調べよう

土の性質について、様々な方面から工夫して調べようとしているか。----- [意欲・技能・態度]

4. 様々な土に植えてみよう

積極的に世話や観察記録をとっているか。----- [意欲・態度]

5. 芽が出たかな

予想との比較を自分なりに考察できているか。----- [知識・意欲]

6. いい土をつくろう

土の様子を気にかけて、記録をとっているか。----- [意欲・態度]

7. 土の役目って何

土の重要さに気付いているか。----- [知識・態度]

8. 土の(大型)絵本をつくろう

工夫してストーリーを考えようとしているか。----- [意欲・態度・表現]

グループの中で協力し合っているか。----- [意欲・技能・態度]

9. 発表会

意欲的に練習にのぞめたか。----- [意欲・態度]